

# ネパール、カトマンズ市の仏教僧院における 僧院運営の変容が建物保存に及ぼす影響

川崎 悠平

キーワード：カトマンズ、仏教僧院、僧院運営、建物保存

## 1. 背景と目的

カトマンズ盆地は、ネパールのほぼ中心に位置し、二千年を経た現在でもなお息づいているネパール文化の文化的特異性によって世界遺産として登録されている。仏教僧院建築は、ネパールで独自の発展を遂げたネパール仏教と密接に関係しており、現在でも様々な宗教行事が行われる地域の集会場的側面を持つ生きた文化遺産である。本研究では世界遺産カトマンズ盆地における、仏教の影響力の低下による僧院運営の変容と僧院建物保存の関係性に焦点を当て、生きた文化遺産としての仏教僧院の継承やサンガと呼ばれる僧院運営主体の現代的あり方に有意な示唆を得ることを目的とする。

## 2. 仏教僧院建築の変容

仏教僧院は正方形を基本平面とし周囲を僧院建物が取り囲む口の字型の平面を持つ、2層の建築である。僧院中庭への入口からの軸線上の突き当たり中央に位置する神殿は、本尊が安置され、僧侶カーストとしての世襲に関係する重要な儀礼を行う場であるため、特別な配慮がされる場合が多い。神殿を含む僧院建物全体を良好に保存している僧院は5件しか存在せず、かつての仏教僧院は住居や店舗として自由に増改築を施され、本来の僧院の姿がその神殿部分にかろうじて残っているような僧院も見られる。一部の僧院ではカトマンズ市の援助を受け、神殿のみを伝統的な外観を保ちながら補修していた。

## 3. 僧院運営の変化

古代には、仏教僧院は王族の庇護を受け、大きな権力を持っていたが、中世のカースト制度の導入、近代の土地制度改革による収入の減少、大部分の土地の喪失、僧院建物の所有権のサンガから個人への移動、などの変化によってその運営の現状は、大きく異なっている。伝統的な僧院運営は大部分を伝統的な土地からの収穫物による収入に頼っており、1960年代の土地改革政策によって、僧院運営は特に変化を余儀なくされた。現状では僧院活動を実施することが困難なほど、所属する僧侶の少ない僧院、もしくは所属する僧侶が一人も存在しない僧院が確認される。多くの僧院では、僧院活動のための定期的な収入がなく、儀礼や祭事の継続のためには、その度に所属するサンガメンバーから寄付を募っている。また、金銭的な理由から儀礼や伝統を取りやめる僧院もあった。一方で、伝統に従い僧院活動を継続している僧院も存在するが、その数は非常に限られている。

## 4. 僧院運営の変化が建物保存に及ぼす影響

都市化の影響下にあるカトマンズ市旧市街地の中心部では、高層の建物への建て替えが進んでいる。そのような場所に立地する仏教僧院の多くでは、僧院の伝統的な外観を保つだけの運営能力を、運営主体である現代のサンガが失っている。かつて所有していた僧院運営のための伝統的な土地を持たず、寄付を集めるだけの人数も足りない仏教僧院では、老朽化した神殿や僧院建物を建て直すこともできない。一方で、地価が高沸している中心部においては、サンガが僧院建物を高層化し、賃貸することで収入を得るなど、仏教僧院運営の金銭的課題の現代的な解決と、それに応じた僧院建築の変容が見られる。特に僧院建物の保存においては、現代に残るネパール仏教の実践の場としての宗教建築の価値認識を重んじて、僧院の伝統的な外観を保つか、都市化の影響に適応した僧院運営を行い、高層化により金銭的課題の解決を図るといった、伝統の尊重と現実的解決の間で葛藤が見られた。